

2013年度公益財団法人熊本YMCA事業報告

第1 事業の状況

〔公益目的事業〕

A. ウェルネス事業（野外教育活動及び健康教育活動）

1. 野外教育活動

（1）自然体験活動

①通年野外クラス

1）インディアンズクラブ（宿泊を伴う野外活動）

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	4名	6名	10名	14名	8名	12名	8名	8名	30名	40名

〔年間評価〕

年間を通して目標人数を上回って活動することができた。学校行事や、他の習い事からの影響を受けやすい傾向がみられることもあり、更なる活動内容の充実を目指していきたい。

2）サタデーインディアンズクラブ（日帰り野外活動）

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	4名	5名	30名	17名	15名	11名	5名	2名	54名	35名

〔年間評価〕

年間を通して△20名前後の推移であった。毎月の体験参加はあったものの、通年活動への入会に結びつかなかった。野外活動の目的、価値をはじめ、活動内容の告知、報告をより充実し、参加を促していく。

※通年野外クラス、参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	—	3名	2名	2名	7名

②季節野外活動

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
センターキャンプ	—	14	25名	—	15名	30名	30	25名	70名	69名
春期キャンプ	30名	35名	—	—	25名	21名	30名	29名	85名	85名
夏期キャンプ	110名	130名	120名	137名	120名	126名	120名	127名	470名	520名
冬期キャンプ	70名	78名	80名	71名	50名	62名	50名	47名	250名	258名
合計	210名	257名	225名	208名	210名	239名	230名	228名	875名	932名

〔年間評価〕

学校の長期休み期間を中心に実施しているキャンプは、台風等の自然災害の影響もなく、計画通りに実施できたことから目標人数を上回る参加者を得た。キャンプロケーション、内容を評価しつつ、更なる充実を図っていきたい。今年度から本格的に実施したセンターキャンプに関しては、告知が不十分であったことをから、次年度は他キャンプと同様しっかりと告知を行っていく。

※季節野外活動、参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	3名	6名	2名	1名	12名

③障がい児支援キャンプ

プログラム名	担当部署	実施日	参加人数
ポニーキャンプ (熊本盲学校との共催)	ICR	7月25日～26日	生徒：14名 ボランティア等：37名

[年度評価]

ポニーキャンプは、熊本県立盲学校と協力して、国立阿蘇青少年の家に1泊2日で宿泊し、学生14名とボランティア・スタッフなど総勢51名で活動を行った。40回目の記念キャンプとして実施したが、阿蘇の自然と資源を活用して思い出になるキャンプとなった。

プログラム名	担当部署	実施日	参加人数
コスモスキャンプ (日本自閉症協会熊本県支部との共催)	阿蘇	8月17日～18日	児童：名16 ボランティア等：25名

[年度評価]

今年もコスモスキャンプ実行委員会、ボランティアに支えられキャンプを無事に終わることができた。毎年継続して参加している子どもたちもおり、その成長していく姿を見ることで保護者、ボランティア共に大変喜ばれていた。継続の大切さ、このキャンプの意義を改めて確認できた。

④災害児支援キャンプ

プログラム名	担当部署	実施日	参加者数
第2回 あそぼうキャンプ	阿蘇	9月14日～16日	児童：39名 ボランティア等：29名

[年度評価]

全国から寄せられた被災児童支援の指定寄附金を用い、東日本大震災で被災し熊本県内に居住している児童及び九州北部豪雨災害で被災した児童が2泊3日の日程で、精神科医のケアのもとホームセラピーや野外体験活動を行った。本年度は天候に恵まれ昨年できなかったプログラムも実施することができた。

(2) リーダーシップ養成活動

プログラム名	担当部署	実施日	参加人数
1) キャンプリーダートレーニング	野外教育	5/20, 21, 27, 28 (実施) 11/12, 13 (実施)	5月開催各85名 11月開催各11名
2) 熊本YMCAリーダー研修会	野外教育	11/23 (実施)	28名

[年間評価]

1) キャンプリーダートレーニング

今年も多くのリーダーが参加してくれた。特に、YMCA学院以外の学校からの参加も年々増えてきたことに感謝したい。

2) 熊本YMCAリーダー研修会

所属YMCA、参加種目を問わず、熊本YMCAで活動しているリーダーが集い研修会を行った。全国YMCAリーダー研修会に参加したリーダーからの報告や、「わたしたちにできるボランティア」をテーマに基調講演をうけ、「寄り添う」というテーマでグループディスカッションを行い、参加したリーダーからは「自分の価値を認めること」「目標をもって、何事にもチャレンジすること」など良い意見交換と学びの時間となった。

(3) 自然環境の保全活動

プログラム名	担当部署	実施日	参加人数
1) 植林事業 (森林探検隊) (会場：YMCA的石キャンプ場)	野外教育	4月21日	32名
2) 環境教育プログラム (会場：YMCA的石キャンプ場ほか)	阿蘇	4月21日、5月25日、 7月27日	各回33名 延べ99名
3) YMCAエコキャンプ	阿蘇	8月21日～23日	25名
4) 熊本県青年森林協力隊推進事業	野外教育	11月9日に実施	26名
5) 九州キャンプミーティング	野外教育	2014年2月22日実施	28名

〔年間評価〕

1) 植林事業：

4月21日にアースウィークの一環として、また昨年のYMC A阿蘇キャンプ60周年記念事業を受け、阿蘇森林組合の指導により今年度は的石キャンプ場にてブルーベリーの苗木を30本植樹した。参加者はYMC A高等学校、幼児から小学生、ボランティア、運営委員、スタッフ32名が参加した。

2) 環境教育プログラム：

地球環境の保全、自然環境の保護を目的として4月～7月に実施、延べ99名が参加した。的石キャンプ場を中心にネイチャーゲームの実施や的石御茶屋の湧水を環境教育プログラムの一環として楽しんだ。特に、今年は猛暑となりつきることのない水の大切さを実感した。

3) YMC Aエコキャンプ：

8月21日～23日に阿蘇キャンプで環境教育を目的として実施した。参加者はメンバー19名、スタッフ6名の25名。公益財団法人阿蘇火山博物館館長から阿蘇のカルデラや火山活動を学び、阿蘇の遊水峡で楽しみながら環境教育キャンプを実施した。

4) 熊本県青年森林協力隊推進事業：

的石キャンプ場が阿蘇市との防災協定により阿蘇市的石地区民間避難所となることを受けて、現地のフィールド・ワークを11月9日（土）に26名で行った。

5) 九州キャンプミーティング：

2014年2月22日に九州各県のキャンプ関係者が一同に会し、「これからの自然活動」をテーマにシンポジウムを開催した。

2. 健康教育活動

(1) スポーツ活動

ア. 子どもスポーツ活動

①通年クラス

1) 体育英語幼稚園

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	24名	24名	—	—	16名	16名	15名	13名	55名	53名

〔年間評価〕

他のウェルネスプログラムと異なり、年度初めに在園児数が確定することから、新入園児募集が年間の募集のポイントとなる。入園受付時期が一般幼稚園と同時期ということもあり、体育英語幼稚園の特色をより告知できるよう取り組んでいきたい。その為にも、YMC Aの理念に加え、日常プログラムの様子をブログに掲載するなど告知をより強化していきたい。

2) 体操

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	191名	206名	284名	244名	182名	199名	226名	247名	883名	896名

〔年間評価〕

季節的な影響を受けにくく、年間を通して予定通りの募集推移となった。プログラムの充実を図りながら、よりYMC A体操をアピールできるよう、広報・指導技術研修と多方面からアプローチしていく。

3) 新体操

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	27名	28名	34名	29名	50名	51名	55名	55名	166名	163名

〔年間評価〕

年間を通して、参加者数に変動は少なかったものの目標を下回る結果となった。新体操の楽し

さ・美しさ、団体での演技他、を更にアピールしていく。指導人材の開拓、育成にも取り組んでいく。

#### 4) サッカー

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	72名	76名	123名	120名	132名	130名	147名	190名	474名	516名

〔年間評価〕

一般教室にチームを加えると年間を通して目標人数を上回った推移となった。その中において、幼児の参加者割合が減少しており、この年代の安定的な増員が今後の大きな課題である。指導者に関しても、安定して配置ができるよう育成に努めていきたい。

#### 5) 水泳

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	—	—	1,087名	1,000名	947名	1,062名	898名	904名	2,932名	2,966名

〔年間評価〕

冬期における減少も予定を下回り、年間を通して目標人数を上回ることができた。地域的にみると、ながみねファミリー、むさしYMCAが好調であったのに対し、みなみYMCAが低調な推移となった。指導者の安定した配置が課題としてあり、次年度の準備では改善に向け指導者配置に早期に着手していく。

#### 6) ヒップホップ (チアダンス含む)

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	13名	12名	36名	27名	33名	44名	109名	131名	191名	214名

〔年間評価〕

社会的にダンス系プログラムに関するニーズが高まってきており、年間を通して好調な推移を維持できた。指導の多くを非常勤講師が担っている側面があるため、相互理解及び十分な情報交換を行い、安定的な運営に取り組んでいきたい。

#### 7) その他のプログラム (ベビー体操、チャレンジキッズ、ワンコイン等)

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	15名	18名	19名	18名	16名	13名	8名	39名	58名	88名

〔年間評価〕

気軽に参加できることから、想定より多くの参加者が得られた。特に親子プログラムは手軽さを確保しつつも継続的に参加できるようなプログラムの設定を検討し、実施していきたい。

#### ※子どもスポーツ通年クラス、参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	7名	19名	20名	17名	63名

#### ②講習会

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
春期	70名	90名	105名	121名	165名	196名	135名	162名	475名	569名
夏期	175名	160名	365名	340名	383名	465名	372名	391名	1,295名	1,356名
冬期	75名	74名	115名	119名	165名	272名	155名	249名	510名	714名
合計	320名	324名	585名	580名	713名	933名	662名	802名	2,280名	2,639名

〔年間評価〕

全期とも目標人数を上回る参加者が得られた。参加者アンケートを基に改善を重ねながら、より充実したプログラムが提供できるように今後とも取り組んでいく。

外部施設で実施するスケートプログラムは、緊急時の対応をより確実なものにするために、検討を重ねていく。

※子どもスポーツ講習会、参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	1名	2名	7名	—	10名

イ. 発達障がい支援活動

①通年クラス

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	30名	19名	20名	18名	22名	34名	—	—	72名	71名

〔年間評価〕

<中央>

学習支援は、保護者の熱心な面談参加もありプログラムに対する期待を感じる。土曜のニーズに応え、2コース実施で15名の受入を確保し、かつ少ない指導者での実施を継続した。フロアは、少しずつ関心は広まりつつあるが参加者3名で数に伸び悩みがある。良い内容を提供できているので、広報が今後の課題である。

<みなみ>

1年間を通して目標人数を達成することができなかった。プログラム内容の見直しを行いたい。

<ながみね>

プール、フロアと参加者・保護者に好評を得ている。運動を通しての身体作り、動き作り、仲間作りを経験しながらこころとからだの成長の機会となっている。

※通年クラス、参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	1名	—	3名	—	4名

②講習会

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
夏期	13名	14名	3名	2名	—	—	—	—	16名	16名

〔年間評価〕

<中央>

学習支援とコミュニケーショントレーニングの2本立てでカリキュラムを立案。参加者は1名を除きすべてクラス在籍生で占められた。一般外部への周知が課題である。

<みなみ>

若干目標人数に達することができなかった。指導者の安定的な確保に努めていきたい。

ウ. 成人スポーツ活動

①通年クラス

	みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
アクア	○		○		○			
ジム	○		—		○			
フィットネス	○		○		○			
月平均	815名	791名	175名	167名	743名	724名	1,733名	1,682名

〔年間評価〕

冬場の減少を見越していた1月～3月を除き、目標人数を下回る結果となった。高齢者層の継続を確保しながらも、青壮年層の参加を促していけるよう、プログラム、施設運営の両面から取

り組んでいく。設備に関しても、老朽化が進んでいるものは計画的に入れ替えを実施していく。

## ②水泳講習会

	みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	25名	21名	15名	7名	10名	12名	50名	40名

[年間評価]

いずれのYMCAも参加者の入れ替わりが少なく、年間を通して参加人数の変動が認められなかった。プログラム単体でコミュニティが形成されており、チャリティバザー等への参画されている方も多く感謝である。継続性を確保しながらも、新たなメンバーが参加しやすい環境を整えていく。

## エ. 高齢者スポーツ活動

①メディカルチェック費用無料者（60歳以上の参加者：人数はウ①通年クラスを含む。）

	みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
年間合計	42名	23名	—	—	50名	23名	92名	46名

[年間評価]

冬場での参加者が極々限られており、告知に関する見直しを行う。医療機関との協働促進のためにも、現在のシステムの評価から新たな事業展開にむけた検討を行いたい。

## (2) 地域支援活動

### ①水の安全キャンペーン

プログラム名	中央	みなみ	上通	ながみね	むさし	阿蘇	計
水の安全ハンドブック 配布部数	1,155部	2,600部	45部	2,050部	2,950部	850部	9,650部
配布先：小学校	17校	36校	1校	23校	42校	9校	128校
幼稚園	園	園	園	2園	園	園	2園
保育園	園	園	園	1園	園	4園	5園
着衣水泳指導先	小学校、幼稚園、保育園等からの依頼により下記にて実施						

(着衣水泳指導先)

校・園名	期日	曜	対象	人数	実施Y	指導者
かすみ保育園	6月20日	木	年中～年長	49	むさし	3
白川保育園	6月27日	木	年中～年長	55	むさし	2
川尻保育園	7月2日	火	年少～年長	49	みなみ	2
白川幼稚園(大津)	7月2日	火	年少～年長	116	むさし	2
ひろやす保育園	7月3日	水	年中～年長	78	ながみね	2
託麻南小	7月 3・11日	水 木	2～5年	645	ながみね	5
武蔵ヶ丘北小	7月4日	木	P T A 一次救命処置講習	40	むさし	1
YMCA 黒川保育園	7月4日	木	年中～年長	47	ながみね	2
隈庄小	7月5日	金	5～6年	165	みなみ	3
飽田西小	7月8日	月	全校児童	132	みなみ	3
ひろやすにし保育園	7月9日	火	年中～年長	50	ながみね	2
出水小	7月 9・10日	火 水	全校児童	496	みなみ	6
ときわ幼稚園	7月10日	水	年中	66	みなみ	2

御幸小	7月 10・11日	水 木	全校児童	600	みなみ	7
YMCA尾ヶ石、 永草保育園	7月11日	木	年中～年長	31	ながみね	2
御船小	7月 11・16日	金 火	P T A 一次救命処理講習	155	みなみ	5
嘉島西小	7月12日	金	5～6年	120	みなみ	3
大津東小	7月12日	金	P T A 一次救命処理講習	45	むさし	1
川尻小	7月12日	金	全校児童	481	みなみ	3
西原小	7月 16・17日	火 水	全校児童	600	ながみね	6
銭塘小	7月17日	水	3～6年	91	みなみ	3
帯山西小	7月18日	木	2、5、6年	345	ながみね	3
YMCA 赤水保育園	7月18日	木	年中～年長	45	ながみね	3
広安小	7月19日	金	5～6年	110	ながみね	2
ときわ幼稚園	9月10日	火	年長	69	みなみ	2
白山小	9月13日	金	1、3年	210	みなみ	3
大津音楽幼稚園	9月17日	火	年長	90	むさし	2

②指導者派遣（熊本市内及び周辺地域）

場所	プログラム	日程	曜	対象	人数	実施Y	指導者
一新幼稚園	レクリエーション指導	6月15日	土	園児	144名	中央	2
白川小学校	レクリエーション指導	6月23日	日	小5	64名	中央	2
一新小学校	スポーツレクリエーション	6月4日～ 3月18日	火	小1～小3	10名	中央	2
一新小学校	体操指導	①6月3日～ 7月10日 ②9月9日～ 12月16日 ③1月20日 ～3月17日	月	小2～小3	各30名	中央	1

場所	プログラム	日程	曜	対象	人数	実施Y	指導者
画図小学校	レクリエーション指導	6月23日	日	小2	260	みなみ	2
ひかり保育園	レクリエーション指導	7月6日	土	小2	30	みなみ	2
松橋小学校	レクリエーション指導	9月22日	日	小3	100	みなみ	2
川尻小学校	レクリエーション指導	11月2日	土	小5	80	みなみ	1
不知火小学校	レクリエーション指導	1月30日	木	3歳	150	みなみ	2
画図小学校	レクリエーション指導	3月16日	日	小学生	40	みなみ	2

場所	プログラム	日程	曜	対象	人数	実施Y	指導者
月出小学校2町内	レクリエーション指導	4月20日	土	小学生	80名	ながみね	1
帯山小学校4町内	レクリエーション指導	5月11日	土	小学生	100名	ながみね	1
託麻南小学校	レクリエーション指導	10月18日	土	小学生	100名	ながみね	2
帯山西小学校	レクリエーション指導	11月9日	土	小学生	200名	ながみね	2
尾上小学校	レクリエーション指導	12月6日	金	小学生	60名	ながみね	1
託麻南8町内子ども会	レクリエーション指導	3月2日	日	小学生	70名	ながみね	1

場所	プログラム	日程	曜	対象	人数	実施Y	指導者
植木小学校	レクリエーション指導	5月18日	土	小3	100	むさし	2
西合志東小学校	レクリエーション指導	10月19日	土	小2	30	むさし	1

## B. 子育て支援事業

### 1. 幼児保育活動（ぶどうの木幼児園）

#### ①ぶどうの木乳児園（みなみYMCA）

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳	計
目標人数（月平均）	10名	12名	4名	3名	29名
在籍人数（月平均）	13名	12名	8名	4名	37名

〔年間評価〕

今年度は目標を上回る人数が集まり、安定した運営ができた。次年度へ向けて指導者の確保が課題である。

### 2. アフタースクール（学童保育）

#### ①通年クラス

##### 1) アフタースクール

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	—	—	18名	16名	—	—	18名	21名	36名	37名

〔年間評価〕

<みなみ>

4月当初は1年生の参加が多いが、1学期の終わりに向けて減少している。もう一つの自宅としての位置づけと、魅力のある内容を検討し、参加者が定着するようなプログラムを実施したい。

<むさし>

今年度は参加者の学校数が増えたにもかかわらず、学校への直接送迎車の運行に工夫を凝らしたことから、通常プログラムへの参加もスムーズに行えるようになり、この点は評価に値する。また、保護者からの要望で、通常期間や夏期などの季節休暇中の預かり時間にも柔軟に対応しており、参加者増につながっている。アフタースクールのプログラムに組み込まれている絵画教室も情操教育の一環として好評である。今後、更なる行政・学校との連携を深めていきたい。

##### 2) 児童絵画

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	—	—	6名	5名	10名	9名	3名	—	19名	14名

〔年間評価〕

<みなみ>

単独で見ると、人数は少ないが、アフタースクールの在籍生が全員受講するため、人数は安定している。単独受講者を増やすためのアピール方法を検討したい。

<ながみね>

芸術プログラムとして参加者に好評である。館内での展覧などで表現活動をアピールしている。

<むさし>

アフタースクールの時間内の設定のため、児童絵画としての単独での参加はない。アフタースクール参加者の作品を掲示し、アピールを行っている。他部門の会員にも好評を得ている。

#### ※通年クラス、参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	—	2名	1名	—	3名

②講習会

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
春期	—	—	20名	43名	3名	4名	—	—	23名	47名
夏期	—	—	80名	44名	9名	6名	—	—	89名	50名
冬期	—	—	20名	18名	3名	3名	—	—	23名	21名
合計	—	—	120名	105名	15名	13名	—	—	135名	118名

〔年間評価〕

<みなみ>

短期の講習会は、夏・春が好調である。冬は保護者の休みと学校の休みとの兼ね合いで日程設定が難しい。通年コースと違い、短期のみの参加者は安定している。

<ながみね>

少人数であったが、共働き等の家庭でもで休みの間、安心して預けられる場所となっている。

※講習会、参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数		2名	4名		6名

C. 国際理解・国際教育活動（国際交流活動及び語学教育活動）

1. 国際交流活動

①海外派遣

プログラム名	担当部署	実施日	参加者数
タイ・ワークキャンプ	ICR	8月20日～29日	7名
タイ・スタディツアー	ICR	未実施	—
ミャンマー・モガウンYMCA訪問	みなみ	10月10日～16日	3名
インドネシア・メダンYMCA訪問	上通	8月26日～31日	2名
東ティモール	ながみね	現地視察：6/6～11 ワークキャンプ：9/8～17	1名 1名
カンボジアYMCA訪問	むさし	3月9日～13日	4名

〔年間評価〕

<ICR>

タイ・ワークキャンプは、8月20日～29日に9泊10日の日程で、タイ国チェンマイ県・チェンライ県のYMCAを学生6名引率1名の合計7名が訪問した。タイ少数民族山岳民族の子どもたちが学校へ通うための施設「若竹寮」を訪ね、共同生活やワーク、また山岳民族の村にホームステイを行い、体験を通じて異文化理解を深めた。キャンプを通じて、アジアにおける多文化共生のあり様、地球市民としてのあり様を学ぶ機会となった。タイ・スタディツアーは募集した参加者が集まらず未実施となった。

<みなみ>

10月10日から16日の期間に3名が支援金と古着を持ち訪問した。また、各家庭を視察、状況把握と今後の支援計画など協議することができた。

<上通>

8月26日（月）から31日（土）までインドネシアのメダンYMCA及びスマトラ島の国立公園等を「YMCA国際ユースボランティア」の大学生1名と職員1名が訪問した。期間中は野生のオラウータンや象などが生息する内陸部で地産地消や地元還元をコンセプトにした「オルタナティブツーリズム」としてジャングルトレッキングに参加した。このほか、孤児院訪問やメダン市郊外の貧困地域の子どもたちへの支援活動を行った。

<ながみね>

東ティモールの支援を開始した。6月に視察、9月にはワークキャンプにスタッフを派遣し、サッカー指導と物資提供などを行った。また現地からのスタッフを熊本に招待しての研修を行う

など、相互交流を通して支援活動を行った。

<むさし>

過去2回のカンボジアYMCA訪問を踏まえて、2014年3月9日～13日に今後の交流の機会を設定すべく、運営委員、ユースリーダー、職員がチームとして訪問した。2014年度の9月にカンボジアYMCAからのユーススタッフ又はリーダーをむさしYMCAに招聘することを目標とし、ホスピタリティ研修会の開催やむさしYMCAとしてのホームステイ受け入れなどを通して交流の発展を図っていききたい。

②海外受入

プログラム名	担当部署	実施日	受入者数
ICCPJ 海外キャンプカウンセラー受入 (ICCPJ: インターナショナル・キャンプ カウンセラー・プログラム)	阿蘇/ 上通	7月16日～8月16日 8月20日～24日	2名
環境教育ツアー (香港の大学生)	上通	6月11日～17日	16名
スキー交流 (台中YMCA)	阿蘇/上 通、他	2月5日～9日	18名

[年間評価]

<阿蘇>

ICCPJ: 今回は阿蘇YMCAの業務以外にも山のロングキャンプ、海のロングキャンプにそれぞれキャンプカウンセラーとして参加した。日本語でのコミュニケーションとグループワークについて学ぶ機会を設けた。

<上通>

ICCPJ: 熊本の大学生との交流、小国町教育委員会主催の国際交流会へ参加するなどした。  
香 港: 環境学習のために1週間熊本に滞在し、水俣病の学び、阿蘇の草原維持管理、西日本で増えつつある竹害について学んだ。また小学生との国際交流のため、熊本市立泉ヶ丘小学校を訪問した。  
台 湾: スキーを通じた国際交流として前年度に続き2回目の実施。小学生から40歳代まで幅広い年齢層の参加者が、熊本YMCA職員よりスキーの講習を受けた。講習は九重森林公園スキー場を用い、期間中参加者は阿蘇YMCAに滞在し、交流を深めた。

③国内交流

プログラム名	担当部署	実施日	参加者数
1) 広島ピースセミナー	ICR	8月4日～6日	2名
2) PHD協会研修生との交流	ICR	1月16日	10名

[年間評価]

1) 広島ピースセミナー

広島ピースセミナーは8月4日～6日の2泊3日で実施され、学生1名、職員1名を派遣した。現地広島YMCAの主催で世界各地から参加した学生や国内から参加したユース世代との交流、被爆体験者からのメッセージ、平和記念式典への参列などの体験、そして核廃絶、非核非武装、平和の尊さについての学びは地球市民としての育成の機会となった。

2) PHD協会研修生との交流

多文化共生理解プログラムとして、PHD協会の研修生3名と国内研修生1名、スタッフ1名を迎え、YMCA高等学校の学生との交流を行った。海外からの研修生の報告を聞いた後、留学生と高校生がグループに分かれてディスカッションを行い、より深い交わりを持つことができた。

## 2. 語学教育活動

### (1) 国際理解を深めるための外国語教室

#### ア. 子ども英語教育活動

##### 1) Z o o クラブ

	中央		みなみ		上通		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	14名	18名	29名	32名	29名	11名	19名	19名	21名	23名	98名	103名

[年間評価]

熊本YMCAの語学教育事業を支えるプログラムとなっている。外国人講師とアシスタントによる充実したケアのもと週1回80分のレッスン、年少～年長の3年カリキュラムに保護者からも高い評価を得ている。

##### 2) 子ども英語クラス

	中央		みなみ		上通		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	39名	35名	208名	220名	—	—	119名	134名	146名	135名	512名	524名

[年間評価]

一年を通して在籍者は目標人数を上回った。実用的な英語力の養成はもちろんのこと、多文化共生の概念や人格形成のために必要な様々な取り組みを英語指導プログラムの中に織り交ぜてプログラムを運営した。必要な指導者の育成も強化して行った。

#### ※通年クラス、参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	上通	ながみね	むさし	計
利用者数	—	6名	—	1名	2名	9名

#### イ. 成人語学教育活動

##### ①英会話クラス

	みなみ		上通		ながみね		むさし		計	
	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数	目標	実数
月平均	44名	36名	158名	153名	12名	12名	34名	35名	248名	236名

[年間評価]

むさしYMCA、ながみねファミリーYMCAで若干名目標人数を上回ったが、全体としては目標人数に達することはできなかった。オンライン学習をはじめとする英会話学習の多様化も一因とみている。

一方で、国際協力をコンセプトにしたクリスマスパーティーには100名の参加があり、語学教育を通して仲間づくりや人間同士のつながりの場を提供している。

#### ※通年クラス、参加費減免制度の利用者数

	みなみ	上通	ながみね	むさし	計
利用者数	2名	19名	—	8名	29名

##### ②目的別クラス

	上通	
	目標	実数
月平均	9名	9名

[年間評価]

一年を通してほぼ目標どおりの在籍者数であった。英語と比較すると世界のことば（中・韓・独・西・仏）は在籍者の割合として少ないが、年度途中の退会が少なく、受講生間のつながりがリテンションに作用している。

##### ③世界のことば

	上通	
	目標	実数
月平均	63名	59名

(2) 国際理解を深めるための日本語教室

【活動計画及び目標人数】

①生活日本語クラス

	上 通	
	目標	実数
月平均	14名	3名

②日本語教師養成クラス

	上 通	
	目標	実数
月平均	8名	3名

③日本語学校 (短期留学コース)

	上 通	
	目標	実数
月平均	7名	9名

[年間評価]

生活日本語は1月より事実上閉講となった。日本語教師養成講座も振るわず、問合せも少ない状況であった。一方で、変動はありつつも上通日本語学校には、2週間～1ヵ月の短期受講希望のアジアの若者や外国人国内在住者からの申し込みが相次いだ。

日本語学習者には、上通YMC Aで行われている外国語教室に通う日本人との交流の機会などを積極的に提供している。

[収益事業等]

1. 宿泊及び料飲に関する事業 (阿蘇YMC A)

宿泊利用者				飲食提供者			
目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)	目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)
283名	440名	3,400名	5,285名	333名	643名	4,000名	8,968名

[年間評価]

- ・宿泊利用者数、飲食提供者数ともに順調に推移し、目標人数を達成できた。
- 利用者の推移が維持、発展できるように努めていきたい。

2. 指定管理施設受託及びそれに附帯する事業

(\*福岡県大牟田市所有の多目的活動施設「リフレスおおむた」の管理運営)

①主催事業

事業名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
なんでもやる隊 (野外活動クラブ)	計画	9回	30	30	30	30	30	30	30	30			
	実数	10月2回	29	29	27		29	37	25	25			
がまだず隊 (野外活動クラブ)	計画	9回	36	36	36	36	36	36	72	36			
	実数	11月2回	32	32	16	24	25	26	45	28			
ヨガ・健康体操教室	計画	毎週	12*4	12*4	12*4	12*4	12*4	12*4	12*4	12*4	12*4	12*4	12*4
	実数	毎週	98	120	81	109	52	70	87	69	58	66	116
成人陶芸教室	計画	3回					16	16	16				
	実数	3回					9	9	8				
親子陶芸教室	計画	3回	36	36		36							
	実数		41	42		24							
親子ものづくり 教室	計画	2回							40	40			
	実数						11			16			
親子苔玉教室	計画	1回								20			
	実数									12			
クライミング 指導者講習会	計画	8回									20*3	20*4	20*1
	実数	8回									61	80	20
実用書道教室	計画	2回	20						20				
	実数	4回	20					10	10				
着物着付教室	計画	2回							11				
	実数	1回							6				

こっこつゆうゆう 体操教室	計画	1回						15					
	実数	2回					4	9					
親子クッキング 教室	計画	1回									10		
	実数	2回								13	10		
バドミントン大会	計画	2回			25				25				
	実数				32				0				
陶芸サークル発表 会	計画	1回											50
	実数												0
野草を食べよう	計画	1回	110										
	実数	1回	131										
星空観察会	計画	2回				60							60
	実数	2回				7							9
ほたる観察会	計画	1回		40									
	実数			53									
野外活動指導者 講習会	計画	1回			15								
	実数				29								
アウトドア クッキング教室	計画	2回										10	10
	実数	2回										17	17

〔年間評価〕

- ・星空観察会は2回とも天候等により参加者が少なかった。雨でも参加者が満足できるプログラムの必要性を痛感した。
- ・クライミング講習会は、例年当初参加者の20名から最終的に参加者数が少なくなる傾向にあったが、今年度は出席率がよかった。
- ・ヨガ&健康体操教室は、12月までは減少傾向であったが、1月以降広報活動、内容充実を図り、回復傾向となった。
- ・陶芸サークル発表会は、出店予定であったサークルの活動との兼ね合いで次年度以降へ延期することとなった。
- ・年間を通じては、新しい取り組みで利用が増える事業もあったが、天候や内容のマンネリ化で人数が減少した事業も複数あった。全体の内容を精査し、利用ニーズが高く、各目的に沿った事業の取り組みに努めたい。

②施設利用（主催事業以外）

1) 宿泊利用

屋内利用者				キャンプ場利用者			
目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)	目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)
210名	242名	2,520名	2,904名	55名	58名	655名	689名

2) 日帰り利用

キャンプ場				和室			
目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)	目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)
396名	396名	4,750名	4,747名	523名	571名	6,270名	6,843名

体育館				クライミングウォール			
目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)	目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)
1,342名	1,308名	16,100名	15,689名	165名	207名	1,980名	2,480名

料理室				研修室			
目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)	目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)
392名	472名	4,700名	5,660名	575名	582名	6,900名	6,985名

音楽室				創作室			
目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)	目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)
52名	36名	620名	423名	196名	182名	2,350名	2,176名

交流室			
目標 (月平均)	実数 (月平均)	目標 (累計)	実数 (累計)
179名	140名	1,950名	1,673名

[年間評価]

- ・交流室は、現在地域活動とヨガ&健康体操教室で利用しているが、昨年よりも人数が減少した。どちらも利用を促す広報及び利用機会の提供が必要である。
- ・音楽室についても利用者が減ってきている。音楽室としての利用促進を行いつつも、別の活用方法を検討し、対応することをしなければならない。
- ・年間を通しては、施設利用者人数は回復傾向にあるが、その幅はまだ小さいのが現状である。利用が減っているカテゴリーの課題を解決することはもちろん、増えていっているカテゴリーにさらに利用者が増えるための仕掛けも同時に行う必要がある。

### 3. 不動産の貸付に関する事業

中央YMCA及び阿蘇YMCAの土地の一部を学校法人熊本YMCA学園に貸与

1) 中央	熊本市中央区新町1-3-8の土地のうち、461㎡を貸与
2) 阿蘇	阿蘇市車帰の土地のうち、1919.8㎡を貸与

### 4. 自動販売機手数料事業

各施設に設置している自動販売機の手数料収益

1) 中央	7台 (前年度と設置台数変更なし)
2) みなみ	5台 (前年度と設置台数変更なし)
3) ながみね	3台 (前年度と設置台数変更なし)
4) むさし	5台 (前年度と設置台数変更なし)

## 第2 処務の概要

### 1 評議員・役員等に関する事項

#### (1) 評議員

(2014年3月31日現在)

役職名	氏名	職業	就任年月日	担当事務	報酬	備考
評議員	上村眞智子	団体役員	2012年4月1日		無給	
評議員	今村 秀夫	自営業	2012年4月1日		無給	
評議員	岩本 悟	会社役員	2012年4月1日		無給	
評議員	藤本猪智郎	弁護士	2012年4月1日		無給	
評議員	米村 謙一	会社役員	2012年4月1日		無給	
評議員	小堀 鈴代	会社員	2012年4月1日		無給	
評議員	篠崎 泰子	ティールーム施設長	2012年4月1日		無給	

評議員	小川祐一郎	教諭	2013年6月1日		無給	
評議員	立野 泰博	牧師	2013年6月1日		無給	
評議員	朴 哲浩	宣教師	2013年6月1日		無給	
評議員	藤本 義隆	自営業	2013年6月1日		無給	
評議員	松藤 由美	無職	2013年6月1日		無給	
評議員	宮崎 隆二	会社役員	2013年6月1日		無給	
評議員	来海 恵子	市議会議員	2013年6月1日		無給	

(2) 役員（理事・監事）

(2014年3月31日現在)

役職名	氏名	職業	就任年月日	担当事務	報酬	備考
代表理事	菅 正康	勤務医	2013年5月31日	理事長	無給	重任
代表理事	堤 弘雄	私学職員	2013年5月31日	専務理事	無給	重任
理事	明石 照久	大学教授	2013年5月31日		無給	
理事	内村 公春	学校長	2013年5月31日		無給	
理事	角本 浩	牧師	2013年5月31日		無給	
理事	中村 邦雄	自営業	2013年5月31日		無給	
理事	平山 俊生	会社役員	2013年5月31日		無給	重任
理事	横田 佳恵	高校非常勤講師	2013年5月31日		無給	
理事	吉本 寛治	会社役員	2013年5月31日		無給	重任
監事	大崎 隆義	税理士	2013年5月31日		無給	
監事	川上 安生	会社役員	2013年5月31日		無給	重任

2 職員に関する事項

(2014年3月31日現在)

	フルタイム	パートタイム	合計
講師職	39名	—	39名
事務職	35名	28名	63名
合計	74名	28名	102名

3 評議員会・理事会に関する事項

(1) 評議員会

開催年月日	出席数	議事内容	会議の結果
2013年5月31日	12名	〔決議事項〕 ・2012年度計算書類等及び財産目録承認の件 ・任期満了に伴う理事及び監事選任の件 ・辞任に伴う新たな評議員選任の件 〔報告事項〕 ・2012年度事業報告について	・計算書類等及び財産目録を承認 ・理事9名、監事2名を選任 ・新たな評議員7名を選任 ・報告内容を了承
2013年6月20日	12名	〔決議事項〕 ・定款変更の件	・変更案を承認
2014年3月20日	10名	〔決議事項〕 ・2014年度事業計画書承認の件 ・2014年度収支予算書等承認の件 ・辞任に伴う新たな理事選任の件	・事業計画書を承認 ・収支予算書等を承認 ・新たな理事1名を選任

(2) 理事会

開催年月日	出席数	議事内容	会議の結果
2013年5月15日	7名	〔決議事項〕 ・2012年度事業報告承認の件 ・2012年度計算書類等及び財産目録承認の件 ・第1回評議員会招集の件	・事業報告を承認 ・計算書類等及び財産目録を承認 ・評議員会招集を決議
2013年5月31日 (招集手続省略)	9名	〔決議事項〕 ・代表理事選定の件 ・第2回評議員会招集の件	・理事長及び専務理事各1名を選定 ・評議員会招集を決議
2013年7月18日	6名	〔決議事項〕 ・「会員に関する規程」一部変更の件	・変更案を承認
2013年8月26日	7名	〔報告事項〕 ・職務執行状況の報告について ・7月期までの財務状況について	・報告内容を了承 ・報告内容を了承
2014年1月31日	7名	〔決議事項〕 ・2014年度予算大綱の件 ・理事会運営規則の一部変更の件 〔報告事項〕 ・職務執行状況の報告について	・予算大綱を承認 ・変更案を承認 ・報告内容を了承
2014年3月10日	8名	〔決議事項〕 ・2014年度事業計画書承認の件 ・2014年度収支予算書等承認の件 ・第3回評議員会招集の件	・事業計画書を承認 ・収支予算書等を承認 ・評議員会招集を決議

4 会員に関する事項 (会員数の推移)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
普通会員	6540	6565	6404	6452	6329	6561	6590	6597	6521	6219	6458	6364	6467
維持会員	1033	1035	1051	1067	1081	1078	1077	1086	1083	1082	1084	1020	1064
合計	7573	7600	7455	7519	7410	7639	7667	7683	7604	7301	7542	7384	7531

第3 附属明細書

2013年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。